

九州大学

椎葉の奥座敷 秋の紅葉探索と森づくり

宮崎演習林長 久米朋宣

大学演習林とは何なのか？

その答えを Wikipedia に求めたところ、「林学に関する教育研究に必要な施設（文部省令大学設置基準第 39 条）」であり、近年は「フィールド科学に関する教育研究を行うための場として活用」されており、また、「大学における研究・教育のほか、高等学校などとの連携授業や市民向けの公開講座などで活用される」との回答を得ました。近年、演習林を語るうえで、市民向けの公開講座もとても大切な事業の一つになっているようです。

その公開講座ですが、皆様の演習林ではどのように実施しているのでしょうか？

私が所属する九州大学宮崎演習林（以下、宮演）では、椎葉村観光協会と共催で実施しています。以前は、演習林単独で演習林の宿泊施設などを活用して開催していたのですが、3 年前より、とある地域おこし協力隊の方の引き合わせがあり、また、たまたま観光協会のスタッフに登山愛好家で、熱烈な宮演のファン（？）がいらっしゃった関係で、公開講座を共催で実施するに至りました。

今年で 3 回目になる共催イベントですが、1 泊 2 日で開催しています。初日はまず、最新の村のコミュニティーセンターでの座学があり、その後、椎葉を愛する観光協会スタッフによる観光ガイドツアーがあります。宿泊は村の民宿を利用して、2 日目は朝から森の散策をする、という内容です（写真 1）。昨年も今年も、コロナの影響か否か、集客に苦勞していますが、公開講座という演習林の事業を通じて、少しでも村の経済活動に貢献できる今のやり方が個人的にとっても気に入っています。演習林の施設を活用すれば、参加費を抑えられるというメリットもあるのですが、地域経済の活性化に少しでも貢献できたら、と今のところは考えております。



写真 1 林内の散策（三方岳登山道）

今年はさらに、「森林づくり体験」という新しいプログラムを導入しました。荒廃した林地に、ミズナラやカエデといった広葉樹苗を植栽してもらい、また、ツリーシェルター（単木保護により苗木をシカなどの野生生物から守る装置）も設置してもらいました（写真2）。シカの採食の影響で造林がうまくいかないという問題が全国で起きていますが、ここ椎葉村も、シカの個体密度において、九州のホットスポットです。苗木をどう守るかは、この地域の森林づくりにおいて至上命題となっています。単木保護の資材として、商品化されているヘキサチューブ（丈夫だが値段が高い）、とても安価なミカンネット（その一方で破損しやすい）、その中間タイプの針金ネットの3種類を設置してみました。閉会式では、「今後、少なくとも5年間はその成長と環境をモニタリングしますので、ぜひその後の経過を見に来てください」という言葉で締めました。



写真2 森林づくり体験（植栽と単木保護資材の設置）

森林づくり体験（植栽と単木保護）、というアイデアは、コロナ禍でなければ出てこなかったかもしれません。というのも、コロナ禍において、見ず知らずの参加者の「密な状態」を避けるため、マイカーでの移動を基本としたためです。宮演総面積約 3,000 ヘクタールといえど、マイカーでアクセスでき、かつ散策できる場所は1か所しかありません。昨年すでに、その1か所を散策ルートにしていたため、今年も同じルートとなると、リピーターがいた場合、ちょっと申し訳ないな、、、と思い、何か新しいことができないかと職員で話し合った結果、生まれてきたアイデアです。

参加者からのアンケートを見る限りでは、特に森林づくり体験が印象に残ったようで、座学・観察・体験の3セットそろったプログラムに、概ね満足していただけたようです。宮演でも、期せずして市民参加型の研究プロジェクトがはじまりました。その後の結果が楽しみであるとともに、あまり適当なことができないので、身が引き締まる思いです。